

## 着任のごあいさつ

学校長 船木和則

この度は、男鹿海洋高校ホームページにアクセスしていただき、ありがとうございます。

私の高校生活のスタートはここ松風台でした。そして教員としてスタートしたのもここ松風台であり、教頭としてスタートしたのもここ松風台です。今度は校長として再び松風台からスタートできることを、大変うれしく誇りに思います。

さて、本校の教育目標は、「男鹿に学んで世界に羽ばたく生徒の育成」です。男鹿という地で学んだ知識や技術を基に、いずれ生徒たちは巣立っていきます。男鹿の海は、海岸線をもつ世界168カ国とつながっているのです。世界に羽ばたいていける人間に成長してほしいものです。

ここで水産業と海運業の歴史を振り返ってみましょう。

明治維新によって日本は近代国家へとスタートしましたが、日本国内の航路は外国船が支配していました。そこで三菱財閥の創始者・岩崎弥太郎は、明治8年東京の隅田川河口に三菱商船学校を設立しました。現在の東京海洋大学海洋工学部です。キャンパスには明治天皇が日本国内を巡航された際に乗船した帆船明治丸があり、横浜港に帰港した日が現在の海の記念日になっています。

一方その当時「漁業」という言葉はありましたが、「水産」という言葉はありませんでした。明治13年に農務省の松原新之助が、ベルリン万国博覧会に日本産魚類約600種が載った目録を出品し、ヨーロッパの人々を驚かせたという記録が残っています。他国から同魚類はせいぜい50種くらいですから驚くのも当然です。

日本に帰った松原は、日本が海洋国家であることを実感し、早稲田大学の創始者である大隈重信らとともに、「大日本水産会」を設立しました。この会の名称を決める際に、中国の漢書の中から「陸産」という文字を見つけたのです。ここから世界で初めて「水産」という言葉が生まれました。水産は「漁業・養殖・加工」を三つの柱として定義されましたが、ふさわしい英語訳がなく、漁業を意味する「Fishery」ではなく「Fisheries」を英語訳と定めたのです。

そして明治21年には、後継者育成のために水産講習所、現在の東京海洋大学海洋科学部が設立されたのです。その後、全国各地に水産補習学校が設立され、一部は水産高等学校に格上げされました、本校の前身である秋田県立水産学校もその中の一つです。

明治政府が力を注いできた水産教育でしたが、戦後の学制改革によって高校入学前の水産教育は、中学校における「職業科」の中で行われようになりました。しかし、昭和33年に「技術・家庭科」へ改められ、中学校での水産教育は消滅することになったのです。

令和4年度から新学習指導要領が年次進行で実施される運びとなっていることはみなさんご承知のとおりです。今回の改訂の背景となったポイントの一つに、「予測不能な社会の到来」が挙げられます。アメリカのラリー・ページ（Googleの共同創業者、元最高経営責任者（CEO））は、「近い将来、10人中9人は今と違う仕事をしている」と言っています。このように社会や産業の構造が激しく変化していく中で、生徒たちには様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断し、課題を解決していく能力が求められています。

様々な教育活動を通じて、水産・海運界はもちろん、地域から期待される学校、信頼される学校を目指し、地域・保護者・同窓生の皆様の御協力を得ながら、生徒ひとり一人が成長を実感できるよう職員一同一丸となって取り組む所存です。どうか皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。